

# Taxonomic Review of the Moraceae from Japan, Korea, Taiwan and Adjacent Areas (2)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00056280">https://doi.org/10.24517/00056280</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 山崎 敬\*：日本・朝鮮・台湾とその周辺のクワ科植物(二)

Takasi YAMAZAKI: Taxonomic Review of the Moraceae  
from Japan, Korea, Taiwan and Adjacent Areas (2)

## Ficus L.

MIQUEL, F. A. G., Annotations de *Ficus* species in Ann. Mus. Bot. Lugd.-Bat. 3 : 260-300 (1867). KING, G., The species of *Ficus* of the Indo-malayan and Chinese countries in Ann. Roy. Bot. Gard. Calcutta 1, part 1 : 1-66, pl. 1-86 (1887), part 2 : 67-183, pls. 87-225 (1888). SATA, T., Monograph of the genus *Ficus* in Formosa and Philippines : 1-404, pls. 1-54 (1944). CORNER, E. J. H., An introduction to the distribution of *Ficus* in Reinwardtia 4 : 15-45 (1958). —, The classification of Moraceae in Gard. Bull. Sing. 19 : 197-151 (1967). —, Check-list of *Ficus* in Asia and Australasia in Gard. Bull. Sing. 21 : 1-186 (1965). HILL, D. S., Figs of Hongkong : 1-130, pls. 65, Hongk. Univ. Press (1967).

イチジク属は有用植物があるため古くから多くの研究があり、イチジク属だけの厚い文献集(CONDIT, I. J. & J. ENDERDA, Bibliography of the Fig in Hilgardia 25 : 1-663, 1956) がでていっているほどである。しかしこの属の分類は形態的特徴をとらえにくいこともあって長いこと不完全であった。CORNERが精力的に研究してアジアのこの属の分類をまとめたものでほぼ分類が確立されたといえよう。

イチジク属の植物は送粉をイチジクコバチ類に依存しており、イチジクコバチが寄生しなければ種子が作られない。いちじく状花序と呼ばれる特殊な花囊 (fig) の形も寄生蜂との共生の上に発達したものと思われる。最近、蜂との関係を含めたイチジク属の生活史の研究が盛んになり、D. H. JANSEN (How to be a Fig in Ann. Rev. Ecol. Syst. 10 : 13-51, 1979) によって総説がまとめられている。日本でも研究されはじめ、イヌビワの特殊な送粉様式が報告されているし (岡本素治, イヌビワ属の受粉システム, 種生物研究 7 : 82-92, 1983), オーストラリアのオボジツクイチジクと寄生蜂との奇妙な共生関係が紹介されたりして (橘川次郎, メジロ社会, アニマ No. 109 : 74-77, 1982) かなり一般に知られるよう

になった。

イチジクコバチは胸に花粉囊をもち、さなぎから羽化するとすぐに雌蜂は花粉を集めて花粉囊に収め、花囊から飛びだして別の花囊に入り、そこで花粉囊から前脚で花粉を取り出して花囊内に散らす。そこに雌花があれば受粉が行われる。多くの虫媒花の受粉は昆虫が花を飛び廻っている間に花粉が体につくか、食料として後脚に花粉の塊を作って飛び廻っている間に送粉が行われ、昆虫が意識的に送粉しているわけではない。花の方がどのように虫をさそい、花粉を虫の体につけるかで進化を行っている。イチジク属では植物の方でいちじく状花序とよばれる特殊な花囊を作り、雄花が散在しているものから一所に集る方向への進化が見られるが、同時に動物の方でも花粉囊を作り、わざわざ花粉を集めてそれを散らすという行動を行っている。このような送粉様式を ethodynamic pollination と呼ぶ。

イチジク属はアコウ亜属、カシワイヌビワ亜属、イチジク亜属の3群に大別される。前2者はイチジクコバチ科のアガオン亜科 (Agaoninae) とプラストファガ亜科 (Blastophaginae) に属す蜂によって送粉されるが、イチジク亜属のものはプラストファガ亜科の蜂とのみ共生している。アコウ亜属よりイチジク亜属の方がより進んだ形をもつ群であり、アガオン亜科よりプラストファガ亜科の方がより進んだ形をもつ蜂である。進んだ形の植物群に進んだ形の蜂が共生していることはイチジク属の進化とイチジクコバチ類の進化とが密接に関連していることを示し、蜂の各種類の生活史が明らかにされればイチジク属の進化の経路も明らかになるであろう。

イチジク属は熱帯から暖帯に広く分布し、約900種知られ、アフリカ、アジア、南北アメリカと3地域に分化の中心が認められる。4亜属に分類されるがアコウ亜属、カシワイヌビワ亜属、イチジク亜属がアジアに分布するが、*Sycomorus* 亜属はアジアには1種あるだけで主にアフリカの種類である。

高木、低木または藤本で、高木の中には幹や枝から気根をたらし、ときには気根が地上に達して新し

\* 〒112東京都文京区白山3-7-1 東京大学理学部付属植物園

Botanical Gardens, Faculty of Science, University of Tokyo, Hakusan 3-7-1, Bunkyo-ku, Tokyo 112

い幹となって広がり、1本の木で広い面積を占めるものもある。ガジュマルやアコウがそれで、八重山諸島の低地の常緑樹林はこれが優占種となっている。葉は二列互生またはらせん配列が一般であるが、まれに対生のものもある。托葉は比較的大きく早落性で、枝には托葉の落ちた跡が輪状に残る。葉身は一般に厚く、多くは全縁であるがときに鋸歯をもつものや浅い裂片にさけるものもある。一般に羽状脈であるが下部の側脈がよく発達する傾向があり、イチジクのように側脈がよく発達して掌状脈状となるものもある。主脈のわきに分枝する一次側脈の間に、主脈から二次側脈が分岐するが、種類によってはそれが一次側脈と同じような太さになって平行に走り、主脈から多数の側脈が平行して分岐するように見えるものもある（シロガジュマル、インドゴムノキなど）。

葉肉中には修酸石灰の集晶 (cystolith) があることが多い (図 1-2)。葉の両面にあるもの、下面にあるもの、上面にあるものなど種類や群によってさまざまである。また集晶を全くもたないもの (コウトウイチジク亜節 *subsect. Erisycea* の多くのもの) などがある。花囊は葉のわきに1個づつもの、数個が束生するもの、多数が束生状に群つて幹上に直接つものなどがあり、種類によってその傾向はさまざまである。花囊の基部は細い柄のあるものと殆んど無柄のものとのがあるが、いずれもそこに数枚の基部總包葉 (basal bract) があり、種類によってそのつく位置や数が一定していないものもあるが、多くは3枚で接近して柄に附着し、ときに首輪状になる。種類によっては花囊の側壁に側部總包葉 (lateral bract) のつくものがある。花囊の先端には開口部 (ostiole) がある。この周りに多数の上部總包葉があり、開口部をふさいでいる (図 1-1)。その最上部の3枚の形は種類によって特徴がある。

アコウ亜属とカシワイヌビワ亜属は一般に雌雄同株であり、イチジク亜属は雌雄異株である。雌雄同株のものは一つの花囊に雄花、雌花と、雌花の変化した虫食い花とがあり、3者が混在してうるものと、雄花が上部に集っているものとのがある。雌雄異株のものは雌株は雌花だけをもつ花囊をつけ、雄株は一つの花囊に雄花と虫食い花とがある。そして、一つの花囊内に雄花と虫食い花が混って散在するものと、雄花が花囊の上部に集るものとのがある。

アコウ亜属とカシワイヌビワ亜属とは花の基部に1枚の包葉がある (図 1-5.6)。イチジク亜属の花は花被があるだけで包葉はない。花は普通は2~6枚の離生した花被片があるが、ときに花被片は合着して筒を作る (アカメイヌビワ節)。雄花の雄しべは1~6本ある。アコウ亜属では常に1本で2個の葯をもつ (図

1-6)。カシワイヌビワ亜属では1~2本まれに3本。イチジク亜属は変異が大きく1~6本で花糸は離生するものから合着するものまであり、ときに花の中央に退化雌しべがある (図 1-3.7)。雌花は1個の雌しべをもち側壁から下垂する1個の胚珠をもつ子房と、子房の側方につく1本の花柱からなる。花柱の先は細いままで裂けずに終るものが多いが、先がやや肥厚するもの (ギランイヌビワ)、不等の2片に裂けるもの (イヌビワ)、細い同じ大きさの2片に裂けるもの (カシワイヌビワ亜属) などがある。虫食い花は本来は雌性であって、形は雌花と同じであるが (図 1-4)、雌花より花柱が短い。これは寄生蜂の産卵管の長さに関係していて、雌花では産卵管が花柱より短くて、産卵しても卵が子房にとどかず発育できないが、虫食い花の花柱は短く、卵は子房の中に産みつけられて発育するという。

種子 (正しくは瘦果であるが習慣的に種子とよぶ) は多くは球形または楕円形でしばしばやや扁平となり、表面は滑らかである (図 1-9)。花柱の附着点から子房の附着部にかけて條線が走る。この條線はときに太く盛り上って稜となる。ときに種子の表面に細かな凹凸の入るものがある (イチジク節のコウトウイチジク亜節の *F. ruficaulis* など、図 1-10)。種子の大きさは多くは1~1.5mmであるが、コバンボダイジュ列 (*F. deltoidea* や *F. pedunculosa*) のものは腎臓形で大きく、長さ2~6mmである (図 1-11)。またオオイタビ節、オオツルイヌビワ節のものは種子が長楕円形で下部が細くなり (虫食い果は球形)、長さ2~3mmである。この群は藤本で茎は他物の上を這い、特殊な一群である。

#### Key to the subgenera

1. Monoecious trees; figs often with interfloral bracts.
2. Large banyans; figs sessile and borne in leaf-axils or shortly pedunculate and cauliflorous; stamen 1 ..subgen. 1. *Urostigma*
2. Medium-sized trees or shrubs; figs stalked, borne in leaf-axils; stamens 2 or 3 rarely 1, .....subgen. 2. *Pharmacosycea*
1. Dioecious trees, shrubs or climbers: no interfloral bracts. ....subgen. 3. *Ficus*

Subgen. 1. *Urostigma* (GASP.) MIQ., in Ann. Mus. Bot. Lugd.-Bat. 3: 285 (1867); CORNER in Gard. Bull. Sing. 17: 370 (1959), 21: 6 (1965).

アコウ亜属 茎から気根を下垂する高木。葉は厚く革質、花囊は多くは無柄または短い柄があり、1~数個が幹上にできるものが多いが、葉のわきにつ

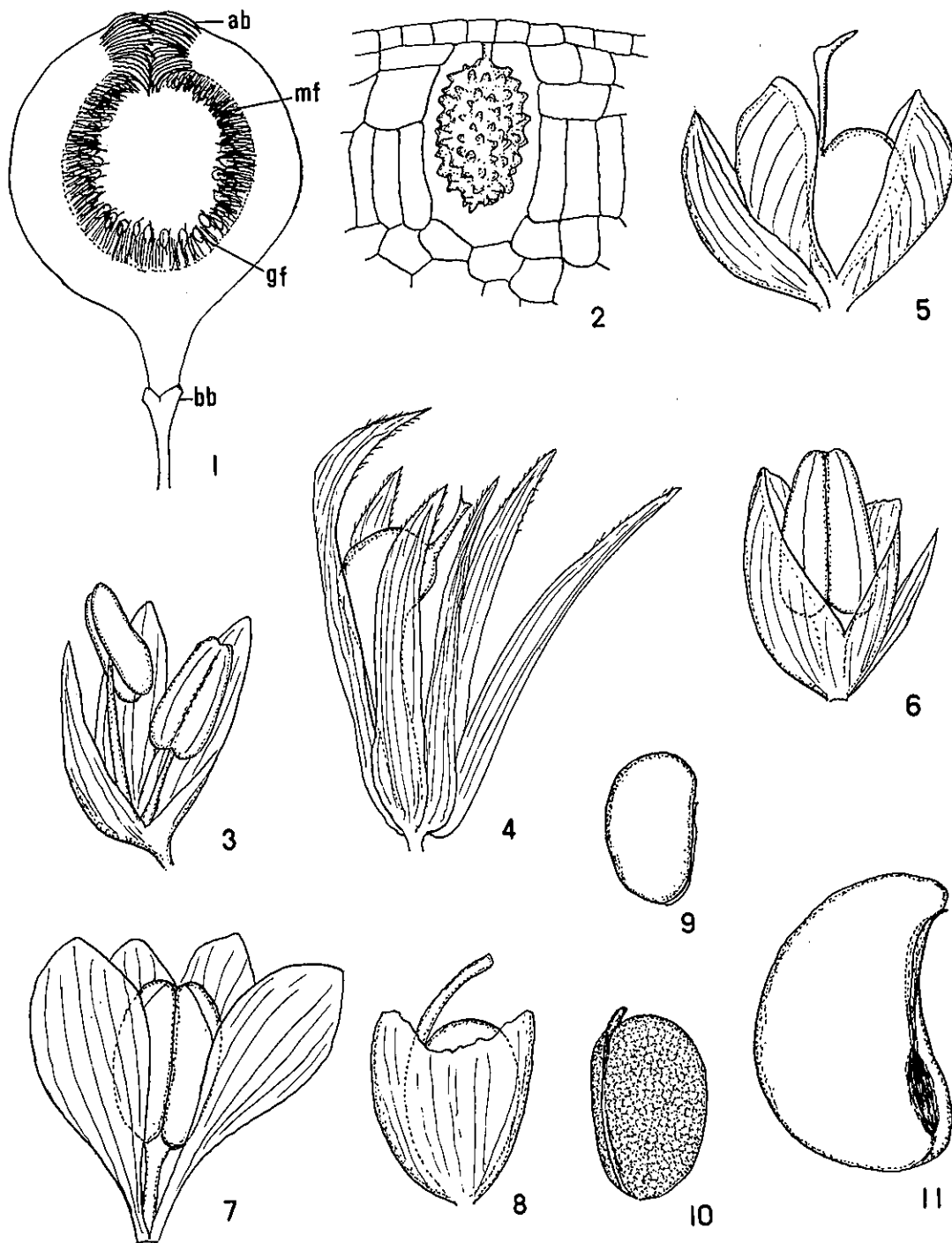


Fig. 1. *Ficus* spp. 1, *F. erecta* イヌビワ ; longitudinal section of fig. ab, apical bracts. mf, male flower. gf, gall flower. bb, basal bracts. 2, *F. microcarpa* ガジュマル ; longitudinal section of a part of leaf showing a cystolith. 3, 4, *F. erecta* : 3, male flower. 4, gall flower. 5, 6, *F. microcarpa* : 5 female flower. 6, male flower. 7, *F. ampelos* ホソバムクイヌビワ ; male flower. 8, *F. bengutensis* アカメイヌビワ ; female flower. 9-11, Seeds ; 9, *F. microcarpa*. 10, *F. ruficaulis*. 11, *F. pedunculosa*. 1, X 2.3. 2, X 280. 3-8, X 20. 9-11, X 16.

く (*F. benjamiana*) ものもある。雌雄同株。各花の基部に包葉がある。雄花の雄しべは1本, 2室に分れた2個の葯をもつ。

### Key to the sections and species of subgen.

#### Urostigma

1. Petioles usually subequal to or longer than leaf-width (often more or less shorter in *F. prolixa*); perianth-lobes of female flower separate, linear-lanceolate, or ovate; figs leaf-axillary or cauliflorous.
2. Primary lateral nerves prominent, intercostal nerves fine not so prominent; figs globose (sect. *Urostigma*).
3. Leaves broadly deltoid-ovate, cordate at base, elongate-cuspidate at apex.  
.....1. *F. religiosa*
3. Leaves oblong-elliptic or elliptic, obtuse or rounded at base, acute or shortly cuspidate at apex.
4. Basal bracts persistent.
5. Leaves large, 10-18 cm long, 5-8 cm wide; petioles 4.5-8 cm long; fruits small, 6-7 mm diam. ....2. *F. caulocarpa*
5. Leaves smaller, 5-10 cm long, 3.5-5 cm wide; petioles 1.5-3 cm long; fruits 8-10 mm diam. ....3. *F. prolixa*
4. Basal bracts caducous; leaves 5-12 cm long, 3.5-6 cm wide; petioles 2.5-5 cm long; fruits 8-9 mm diam. ....4. *F. superba*
2. Venation with primary lateral nerves as prominent as the intercostal nerves; stipules large, up to 15 cm long.
6. Leaves shortly cuspidate-acuminate at apex; figs ellipsoidal, at first covered by large basal involucre bracts which fall off and leave a entire edged cup (sect. *Stilpnophyllum*).....5. *F. elastica*
6. Leaves attenuate-acute at apex: figs subglobose; basal involucre bracts 2, not forming a cup in fruit (sect. *Malvanthera*).  
.....6. *F. macrophylla*
1. Petioles shorter than leaf-width; perianth-lobes of female flower more or less connate at base, broadly ovate to ovate-oblong; figs leaf-axillary (sect. *Conosycea*).
7. Leaves ovate or orbicular-elliptic, 10-16 cm long, 6-12 cm wide; primary lateral nerves 3-4 paired, with fine intercostal nerves;

figs reddish, 12-14 mm diam.

- .....7. *F. benghalensis*
7. Leaves elliptic or obovate, 4-8 cm long, 1.5-4 cm wide; figs yellow, or yellowish white tinged with red.
  8. Leaves with primary lateral nerves prominent, intercostal nerves fine; obtuse to subacute at apex; figs yellowish white or white tinged with red. ....8. *F. microcarpa*
  8. Leaves with primary lateral nerves as prominent as intercostal nerves, cuspidate-acute or acute at apex; figs yellow.  
.....9. *F. benjamiana*

#### Sect. *Urostigma* (GASP.) MIQ.

アコウ節 花囊の先端には鱗片状の包葉がありやや突出する。葉柄と葉身との間には関節がある。葉肉内の下面にのみ修酸石灰の結晶がある。

1. *Ficus religiosa* L., Sp. Pl.: 1059 (1753); CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 6 (1965); LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 735, f. 589 (1962). Acad. Sin.(ed.), Iconog. Corm. Sinic. 1: 486, f. 971 (1972); TERASAKI, Ill. Fl. Jap. 2ed.: 128, f. 494 (1979).

District Subhimalayan forests from Rawalpindi to Bhutan, N. Thailand, Indochina and Yunnan. Widely cultivated.

インドボダイジュ 佛教での聖木として熱帯に広く栽培される。類似したものにインド、マレーシアに広く分布する *F. rumphii* Bl.があり、インドボダイジュ同様に栽培され、混同されることがあるが、後者は葉が広卵形で三角状でなく、基部は切形または円形で心形とならず、先端の尾状にとがる部分は短いので区別できる。

2. *Ficus caulocarpa* (MIQ.) MIQ. in Ann. Mus. Bot. Lugd.-Bat. 3: 235 (1867). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 10 (1965). HATUSIMA, Fl. Ryukyus: 228 (1971). KITAMURA et MURATA, Col. Ill. Woody Pl. Jap. 2: 234 (1979).

*Ficus stipulosa* (MIQ.) MIQ. in Ann. Mus. Bot. Lugd.-Bat. 3: 287 (1867). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 738, f. 592 (1962).

*Ficus infectoria* (non ROXB.) SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 25, f. 20, 31-3, 4 (1944).

Hab. Taiwan and Ryukyus, in evergreen forests at low altitudes.

Distr. Ceylon. Burma, Thailand, Malaysia, Philippines, New Guinea, Taiwan and Ryukyus.

オオバアコウ 沖縄の八重山諸島から南に分布す

る。アコウに外観が似ていてよく間違われるが、花囊は小さく、径6~7mm、花囊の基部の総包葉は永存性であり、葉の側脈は数が多く9~12本ある。アコウは花囊が大きく径8~9mm、総包葉は早落性であり、側脈の数は7~8本である。近縁のものはインドシナ、インド、マレーシア、ポリネシアに分布する *F. virens* Ait. である。これは花囊が大きく径8~9mmあり、葉の側脈は8~9本である。

小笠原諸島の父島の大浦や宮ノ浜にはオオバアコウが生えている。自生種であるなら他の場所にもあってよいと思うが今の所他には見られない。明治42年に八重山諸島からアコウの種子を入れて栽培した記録があるので、その時入ってきたものかもしれない。

3. *Ficus prolixa* FORST. f., Fl. Ins. Austr. Prodr.: 77 (1786). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 10 (1965). STONE, Fl. Guam: 252 (1970).

*Ficus carolinensis* (non WARB.) KANEHIRA, Fl. Micron.: 88, f. 17 (1933).

Hab. Micronesia: Isls. Palau, Angaur, Yap, Saipan, Truk, Ponape, Kusaie, Tinian, in evergreen forests at lowlands.

Distr. Micronesia and Polynesia.

本種と *F. virens* Ait. との区別はむずかしい。CORNER は *F. carolinensis* WAHB. を *F. virens* の異名とし、*F. virens* がカロリン諸島にも分布するとしているが、FOSBERG は *F. carolinensis* を *F. prolixa* の変種として扱っている。CORNER によると *F. virens* の雄花は花囊の上部に集っているのに *F. prolixa* は雄花が散在することで区別している。*F. prolixa* は葉柄が短く長さ1.5~3cmで、側脈の間に平行して走る細脈が目立つ。*F. virens* は葉柄は長さ2.5~4cmで側脈の間の細脈はあまり目立たない。ミクロネシアに *F. virens* が存在するかどうかは再検討さるべき問題である。

ミクロネシアからは葉の基部が心形の変種 var. *subcordata* CORNER が報告されている。サイパン・テナン・グアム・ロタ・クサイ島などに見られる。

4. *Ficus superba* (MIQ.) MIQ. in Ann. Mus. Bot. Lugd.-Bat. 3: 264 (1867).

var. *japonica* MIQ., Prod. Fl. Jap.: 132 (1866-67). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 7 (1965). HILL, Figs Hongkong: 18, f. 3-9, pls. 7-10 (1967). HATUSIMA, Fl. Ryukyus: 228 (1971). KITAMURA et MURATA, Col. Ill. Woody Pl. Jap. 2: 233, f. 689 (1979).

*Ficus wightiana* (non WALL. ex BENTH.) KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 165, f. 116 (1936). MAKINO, New Ill. Fl. Jap.: 98, f. 390 (1961).

OHWI, Fl. Jap. rev. ed.: 504 (1965). Acad. Sin. (ed.), Icon. Corm. Sinic. 1: 485, f. 970 (1972). TERASAKI, Ill. Fl. Jap. 2 ed.: 128, f. 493 (1979).

Hab. Honshu (Kii Pen.), Shikoku, Kyushu, Ryukyus and Taiwan, in evergreen forests near seashores and low altitudes.

Distr. Malay Pen., Indochina, Thailand, S. China, Taiwan. and Japan.

アコウ 基本種はベトナム・タイ・マレー半島の東部海岸・ジャワ・チモール・セレベスに分布する。アコウよりも葉が一般に小さく、果実が大きく、托葉に短毛が密生するなど異なるが連続的な変化である。

#### Sect. *Stilpnophyllum* ENDL.

インドゴムノキ節 托葉は大きく目立つ。葉は一次側脈とその間の二次側脈とがほぼ似た太さで、多数の側脈が平行に走るように見える。花囊は楕円形で葉のわきにつき、基部の総包葉は大きくて若い時に花囊全体を包むが早く落ち、後にコップ状の部分が残る。

5. *Ficus elastica* ROXB. ex HORNEM., ROXB., Fl. Ind. 3: 541 (1833). MAKINO, New Ill. Fl. Jap.: 98, f. 392 (1961). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 718, f. 572 (1962). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 24 (1965). Acad. Sin. (ed.), Icon. Corm. Sinic. 1: 484, f. 968 (1972).

Distr. Sikkim, Assam, Bhutan, Burma, Malay Pen., Sumatra and Java. Widely cultivated.

インドゴムノキ ヒマラヤ東部の低地からジャワにかけて野生する。葉が大きくて厚くつやがあり、若葉が赤色で美しいので観葉植物として広く栽培される。小笠原の父島では帰化状態で見られる。

#### Sect. *Malvanthera* CORNER

オオバゴムノキ節 托葉は大きく、葉は大きくて厚く、平行して多数の側脈が走り、インドゴムノキ節に類似する。後者の花囊の先の開口部は不規則に並ぶ包葉で密にふさがれて閉じているが、本節ではやや開口して二列または三列に並んで包葉がついている。

6. *Ficus macrophylla* DASF. ex PERS., Syn. Pl. 2: 609 (1807). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 25 (1965).

Distr. Australia. Widely cultivated.

オオゴバムノキ オーストラリア北部原産で、しばしば観葉植物として栽培される。花囊は球形で先端の開口部の構造が異なるが、外見はインドゴムノキによく似ている。しかし葉は後者ほどつやがなく、先端は短くとるが、後者のように突起状にとがらない。寺崎・日本植物図譜、平凡社版にオオバゴムノ

キとして解説している496図はアフリカ原産のカシワバゴムノキ *F. lyrata* Warb. である。

Sect. *Conosycea* (MIQ.) CRNER

ガジュマル節 花囊の先端には3枚の包葉 (apical bracts) があるがあまり突起しない。修酸石灰の結晶は葉の両者にある。葉柄と葉身との間には関節がない。

7. *Ficus benghalensis* L., Sp. Pl: 1059 (1753). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 14 (1965). LIU, Il. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 713, 1. 567 (1962).

Distr. India. Widely cultivated.

ベンガルボダイジュ 観葉植物として栽培され、小笠原の父島では野生状態で見られる。葉が大きくて幅が広く、先が円いのが特徴である。果囊は赤褐色に熟す。

8. *Ficus microcarpa* L. f., Suppl. Sp. Pl.: 442 (1781). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 22 (1965). OHWI, Fl. Jap. rev. ed.: 504 (1965). HATUSIMA, Fl. Ryukyus: 229 (1971). Acad. Sin. (ed.), Icon. Corm. Sin. 1: 483, f. 966 (1972). KITAMURA et MURATA, Col. Ill. Woody Pl. Jap. 2: 233, f. 688 (1979).

*Ficus retusa* (non L.) KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 159, f. 108 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 22, f. 18, 19 (1944). MAKINO, New Ill. Fl. Pl. Jap.: 98, f. 391 (1961). TERASAKI, Ill. Fl. Jap. 2 ed.: 128, f. 492 (1979).

Hab. Kyushu (Isls. Yaku and Tanegashima), Ryukyus and Taiwan, in evergreen forests at low altitudes.

Distr. Ceylon, India, Burma, Thailand, Indochina, S. China (incl. Taiwan), Malaysia, Philippines, Ryukyus, S. Kyushu, New Guinea, New Britain and N. and E. Australia.

ガジュマル 屋久島、種子島以南、東南アジアに広く分布し、小笠原父島では野生化している。台湾南部で、葉が厚く先の円いものを var. *crassifolia* (SHIEH) LIAO として区別している。

var. *saffordii* (MERR.) CORNER in Gard. Bull. Sing. 17: 399 (1959), 21: 23 (1965). STONE in Micronesica 6: 251 (1970).

*Ficus saffordii* MERR. in Philipp. Journ. Sci. Bot. 9: 73 (1914).

*Ficus retusa* (non L.) KANEHIRA, Fl. Micron.: 90 (1933).

*Ficus prolixa* FORST. f. var. *saffordii* (MERR.) FOSBERG in Phytologia 5 289 (1955).

Hab. Micronesia: Isls. Palau, Kusaie.

Distr. Micronesia, Isls. Mariana, Carolin and

Ponape.

ミクロネシアのガジュマルは葉の幅が広く基部は円形または心形で、先端はすどくとがり、変種として区別される。ミクロネシアに多い *F. prolixa* とよく似ていて、葉の形だけで区別するのはむずかしいが、葉が小さい以外に、後者の花被は広卵形であって、前者が卵状長楕円形であると異なる。特に雄花で著しい。CORNER はカロリン諸島から別の変種 var. *latifolia* (MIQ.) CORNER を報告している。これはモルッカ諸島で書かれたもので、ミクロネシアにも分布するかどうかは再検討を要する。

9. *Ficus benjamiana* L., Mant. Pl. 1: 129 (1767). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 714, f. 568 (1962). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 21 (1962). Acad. Sin. (ed.), Icon. Corm. Sin. 1: 484, f. 967 (1972). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 130 (1976).

*Ficus cuspidato-caudata* HAYATA, Icon. Pl. Form. 8: 119, f. 43 (1919). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 151, f. 97 (1936). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 717, f. 571 (1962).

Hab. Taiwan: Hengchun Pen., Isl. Penghu, Isls. Lanyu and Luta.

Distr. India, Burma, Thailand, Indochina, S. China, Malaysia, Philippines, New Guinea, New Britain, Isls. Solomon and N. Australia.

シロガジュマル ガジュマルに較べると葉の側脈の数が多く平行にそろって並び、先はとがり、果実が大きく熟すと黄色になる。台湾のものは花囊の基部の総包葉は大きく var. *bracteata* CORNER にあたる。琉球南部にも野生するともいわれたこともあるが分布していないようである。

Subgen. 2. *Pharmacosycea* MIQ. in Ann. Mus. Bot. Lugd.-Bat. 3: 299 (1867). CORNER in Gard. Bull. Sing. 17: 405 (1959), 21: 28 (1965).

カシワイヌビワ亜属 小高木でアコウ亜属のような気根を出すことはない。雌雄同株。花囊は普通は葉のわきにつき、ごく小さい総包葉との間に細い柄がある。花には包葉がある。花被片は中部以下または下部で合着する。雄しべは1~2本、とのきに3本で、2室に分れた2個の葯をもつ。花柱の先は同じ太さに2裂する。アコウ亜属とイチジク亜属の中間的な小さな群で、2節に分類され、sect. *Pharmacosycea* は12種知られすべてアメリカ熱帯に分布する。カシワイヌビワ節は45種知られアジア、オーストラリア、マダガスカルに分布する。

Key to the species of subgen. *Pharmacosycea*

1. Leaves glabrous on both surfaces; nervulets prominent; petioles 1-2 cm long; stipules less than 1 cm long. ....10. *F. nervosa*

1. Leaves pubescent on the nerves beneath; nervulets obscure; petioles 0.4-0.8 cm long; stipules 1-1.5 cm long

.....11. *F. pubinervis*

Sect. **Oreosyceae** (MIQ.) CORNER

10. *Ficus nervosa* HEYNE in Roth, Nov. Sp. Pl.: 338 (1817), not seen. KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 157, f. 105 (1936). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 729, f. 583 (1962). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 31 (1965). HILL, Figs Hongkong: 42, f. 59-65, pls. 28, 29 (1967). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 141, f. 240 (1976). Acad. Sin. (ed.), Icon. Corm. Sinic. 1: 487, f. 973 (1972).

Hab. Taiwan, in evergreen forests at low altitudes throughout the island.

Distr. Ceylon, India, Burma, Indochina, S. China (incl. Taiwan.)

11. *Ficus pubinervis* BL. Bijdr. Fl. Nederl. 1: 452 (1825). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 733, f. 587 (1962). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 31 (1965). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 142 (1976).

*Ficus cuneato-nervosa* YAMAMOTO, Suppl. Icon. Pl. Formos. 1: 1. f. 1 (1925). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 150, f. 96 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 20, f. 211, 22, 31-1,2 (1944).

Hab. Taiwan; Isl. Lanyu.

Distr. Sumatra, Java, Borneo, Timor, Celebes, Moluccas, Philippines and Taiwan.

Subgen. 3. **Ficus**. CORNER in Gard. Bull. Sing. 17: 417 (1959). 21: 35 (1965).

イチジク亜属 藤木, 低木, 小高木または高木, 花囊の基部にある総包葉は一般に小形である。花は包葉を欠く。雄花には1~6本の雄しべがあり, しべしば退化雌しべをもつ, しべしば花糸を欠くか, 花糸は合着する。1室からなる2個の約がある。

**Key to the sections and species of subgen Ficus**

1. Root-climbers; seeds oblong or spatulately oblong, smooth, compressed; when hairy the hairs generally septate.

2. Male flowers pedicellate; stamens 1; branchlets glabrescent: leaves glabrous on both surfaces: figs large-globose (sect. Kalosyce). ....12. *F. aurantiacea*

2. Male flowers sessile or pedicellate: stamens 2: branchlets pubescent: leaves generally pubescent on the nerves beneath: figs small-globose or large-ellipsoidal. (sect. Rhizocladus).

3. Leaves distichous: figs subsessile, globose, 0.8-1.8 cm across.

4. Filaments free; male flowers disperse; leaves orbicular-ovate, obtuse or rounded at apex; basal nerves of lamina elongate; petioles densely and shortly pubescent

.....13. *F. trichocarpa*

4. Filaments jointed; male flowers ostilar; leaves ovate-oblong or ovate, acute at apex; basal nerves not elongate; petioles sparsely long-hirsute, after glabrescent.

.....14. *F. sagitta*

3. Leaves spirally arranged; filaments free; male flowers ostilar.

5. Figs globose, less than 1 cm across, subsessile; leaves ovate-oblong to broadly lanceolate, acute at apex. ....15. *F. oxyphylla*

5. Figs globose or ellipsoidal, more than 1.5 cm across; peduncles 5-15 mm long; leaves ovate, obtuse or acute at apex.

6. Figs globose, 1.7-2.5 cm across; young plants with dentate leaves; adult leaves ovate or broadly ovate, subacute at apex, pubescent on the nerves beneath; lateral nerves 5-6 paired, broadly ascendent, 50°-60° degrees, basal nerves not elongate 1/3-1/2 of lamina-length. ....16. *F. thunbergii*

6. Figs globose or ellipsoidal, 4-8 cm long, 3-5 cm across; young plant with entire leaves; lateral nerves abruptly ascendent, 30°-40° degrees.

7. Leaves ovate or orbicular-ovate, obtuse at apex; lateral nerves 4-5 paired; basal nerves elongate 1/2 or more of lamina-length; adult leaves glabrescent; figs globose or ellipsoidal, 3-5 cm long, 3-4 cm across. ....17. *F. pumila*

7. Leaves broadly lanceolate or lanceolate-oblong, 8-13 cm long, 3-4.5 cm wide, acute at apex; lateral nerves 6-9 paired; basal nerves not so elongate 1/3-1/2 of lamina-length; adult leaves densely pubescent on nerves beneath; figs ellipsoidal, cuspidate-acute at apex, 6-8 cm long, 3-5 cm across.



- .....18. *F. awkeotsang*
1. Trees or shrubs, not root-climbers (excl. *F. vaccinioides* and *F. tannoensis* of creeping shrubs); seeds various; hairs not septate.
  8. Perianth-lobes separate or slightly fused at base.
  9. Stamens 2 or more, rarely 1 (*F. chartacea*); figs with a collar of 3 basal bracts, no lateral bracts; leaves generally symmetric.
  10. Large trees, mostly cauliflorous; male flowers often sessile; filaments shortly jointed; stigma simple thick subconical (sect. Neomorphe) .....19. *F. variegata*
  10. Creeping or erect shrubs or small to medium-sized trees; figs leaf-axillary rarely cauliflorous; male flowers mostly pedicellate; filaments mostly free; stigma slender often bifid (sect. *Ficus*).
  11. Seeds tuberculate, with keeled; leaves without cystoliths; leaves large, 15-25 cm long, 10-15 cm wide; figs large, 1.5-3 cm across (subject. *Erioseya*).
  12. Stems glabrous; leaves ovate to orbicular-ovate, glabrous, rounded at base, entire; figs broadly ovate, sparsely pubescent. ....20. *F. ruficaulis*
  12. Young stems and petioles with dense long ferruginous hairs; leaves obovate often 3-5-lobed, cordate at base, serrate, beneath with dense soft gray hairs; figs ovate, with strigose long ferruginous hairs. ....21. *F. esquiroliana*
  11. Seeds smooth, not or slightly keeled; leaves with cystoliths (subject. *Ficus*).
  13. Leaves palmately nerved, often palmately lobed, cordate at base; figs large. ....22. *F. carica*
  13. Leaves penninerved or dichotomous-nerved, not palmate, entire or dentate; figs small.
  14. Seeds large, reniform, 2-6 mm long.
  15. Plants glabrous all over; leaves often with dichotomous midrib; seeds 4-6 mm long .....23. *F. deltoidea*
  15. Branchlets, petioles and peduncles minutely pubescent; leaves penninerved; seeds 2-2.5 mm long. ....24. *F. pedunculosa*
  14. Seeds small, 1-1.2 mm long, globose or ellipsoidal.
  16. Creeping shrubs, rooting from branches.
  17. Leaves entire, obovate to obovate-oblong, obtuse or rounded at base, 0.7-2 cm long, 0.4-0.9 cm wide; all branches creeping; figs with sparse long white hairs. ....25. *F. vaccinioides*
  17. Leaves entire or 1-2 dentate, linear-lanceolate to ovate (obovate-oblong in f. *rhombifolia*); cordate at base; upper branchlets erect or ascendent; figs shortly pilose. ....26. *F. tannoensis*
  16. Erect shrubs or trees.
  18. Leaves generally smaller and narrower, 4-20 cm long, 2-4 cm wide, cuneate at base.
  19. Leaves oblanceolate to obovate-oblong, cuspidate-acuminate at apex; lateral nerves 5-8 paired, curved-ascending. ....27. *F. formosana*
  19. Leaves linear-lanceolate, gradually acuminate at apex; lateral nerves 10-20 paired, stright and curved at apex. ....28. *F. stenophylla*
  18. Leaves generally larger and broader, 10-30 cm long, 5-20 cm wide, obtuse, rounded or subcordate at base.
  20. Leaves membranous, acuminate at apex; basal bracts broadly ovate, ca.2 mm long; young branches and leaves glabrous or softly pilose.
  21. Shrubs or small trees; leaves deciduous, ovate to linear-lanceolate, 8-20 cm long, 2.5-8 cm wide; figs globose or ellipsoidal; plants glabrous or softly pilose .....29. *F. erecta*
  21. Evergreen large trees; leaves ovate-orbicular, 8-27 cm long, 7-25 cm wide; figs fusiform; plants softly pilose .....30. *F. uidaeana*
  20. Evergreen shrubs, glabrous all over; leaves coriaceous, elliptic or ovate, slightly acute or obtuse at apex; basal bracts ovate ca. 1 mm long. ....31. *F. boninsimae*
  9. Stamens 1, rarely 2; figs without a collar of basal bracts and often with lateral bracts; leaves symmetric or asymmetric at base (sect. *Sycidium*).
  22. Seeds globose or lentinacule; leaves generally symmetric rarely asymmetric at base (subject. *Sycidium*).
  23. Leaves spirally arranged, subcordate at base;

figs with small basal bracts.

- .....32. *F. copiosa*
23. Leaves distichous or frequently decussate, cuneate to rounded at base; figs with prominent basal bracts.
24. Leaves glabrous, asymmetric at base, 4-10 cm long, 2-4 cm wide. ....33. *F. ampelas*
24. Leaves invisibly scabrid or scabrous-hispid, 7-20 cm long, 3-7 cm wide.
25. Leaves distichous, asymmetric at base. ....34. *F. irisana*
25. Leaves frequently decussate, sometimes spiral, subsymmetric at base ....35. *F. cumingii*
22. Seeds oblong or ovate-oblong compressed; leaves asymmetric at base (subsect. *Varinga*).
26. Branchlets, peduncles, petioles and leaf-nerves beneath hirsute; leaves abruptly caudate-acuminate at apex. ....36. *F. heteropleura*
26. Plants glabrous all over (except peduncles).
27. Leaves oblong to ovate-oblong, acute to acuminate at apex, cuneate at base; lateral nerves (5-7)-13 paired. ..37. *F. virgata*
27. Leaves broadly ovate to elliptic-ovate, obtuse; or shortly acute at apex, obtuse or subcordate at base; lateral nerves 3-9 paired. ....38. *F. tinctoria*
8. Perianth gamophyllous, campanulate or cup-shaped; stamen generally 1 (sect. *Sycocarpus*).
28. Branchlets, peduncles, petioles and leaf-nerves beneath pubescent; peduncles 6-10 mm long; figs globose. 39. *F. bengutensis*
28. Plants glabrous; peduncles 2-5 mm long; figs depressed globose. ....40. *F. septica*

Sect. *Kalosyce* (MIQ.) CORNER

オオツルイヌビワ節 藤本・雄花は花囊内に散在し柄がある。雌しべは1本。花被は普通は3枚。花囊は大きい。

12. *Ficus aurantiacea* GRIFF., *Noturae* 4 : 394 (1854); *Icon. Pl. Asiat.* f. 505 (1854). CORNER in *Gard. Bull. Sing.* 18 : 23 (1960), 21 : 61 (1965). LIU et LIAO in *Fl. Taiwan* 2 : 129 (1976).

*Ficus terasoensis* HAYATA, *Icon. Pl. Form.* 8 : 116, f. 39 (1919). KANEHIRA, *Form. Trees*, rev. ed. : 163, f. 113 (1936). SATA, *Monogr. Ficus Form. and Philipp.* : 48, f. 6, 7 (1944).

*Ficus megacarpa* MERR. in *Gov. Lab. Publ. (Philipp.)* 17 : 14 (1904), not seen. ELMER in *Leaf. Philipp. Bot.* 1 : 52 (1906). SATA, *Monogr. Ficus Form. and Philipp.* : 37, f. 2-4 (1944). LIU, *Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan* 2 : 728, f. 582 (1962).

Hab. Taiwan : Isls. Lanyu and Lutao.

Distr. Burma, Thailand, Indochina, Malaysia, Philippines and Taiwan.

台湾のものは葉が小さく var. *parvifolia* CORNER にあたる。外観はオオイタビに似ているが、始めから全体無毛であるので区別できる。

Sect. *Rhizocladus* ENDL.

オオイタビ節 オオイヌツルビワ節と共に種子が扁平な長楕円形であるのが特徴である。藤本。雄花は普通は花囊内の上部に集まる。雌しべは2本。花被は2-5枚。

13. *Ficus tricarpa* Bl., *Bijdr. Fl. Nederl.* 1 : 458 (1825). CORNER in *Gard. Bull. Sing.* 18 : 19 (1960), 21 : 59 (1965). LIU et LIAO in *Fl. Taiwan* 2 : 152 (1976).

Hab. Taiwan : Isls. Lanyu and Lutao.

Distr. Thailand, Indochina, Malaysia, Philippines and Taiwan.

台湾のものは葉の幅が広く先が円形で var. *obtusata* (HASSH.) CORNER にあたる。この形は CORNER によるとスマトラ、ジャワからフィリピンに分布する。

14. *Ficus sagitta* VAHL, *En. Pl.* 2 : 185 (1806), not seen. CORNER in *Gard. Bull. Sing.* 18 : 11 (1960), 21 : 55 (1965).

*Ficus ramentacea* ROXB., *Fl. Ind. ed.* 4 : 3 : 546 (1832). KANEHIRA, *Fl. Micron.* : 89, f. 18 (1933).

Hab. Micronesia : Isl. Palau.

Distr. Andaman Isl., Sikkim, Assam, Burma, Thailand, Indochina, S.China, Malaysia, Philippines and Micronesia.

つる性の低木で、若い時に茎や葉柄に長毛がはえ、葉身の基部は心形なので他とは容易に区別できる。

15. *Ficus oxyphylla* MIQ.: *Zoll. Syst. Verz.* Ind. : 93 (1854), not seen. CORNER in *Gard. Bull. Sing.* 18 : 7 (1960) in syn. KITAMURA et MURATA, *Col. Ill. Woody Pl. Jap.* 2 : 239, f. 691 (1979).

*Ficus nipponica* FR. et SAV., *Enum. Pl. Jap.* 1 : 436 (1875). NAKAI, *Fl. Sylv. Koreana* 19 : 126, f. 41 (1932). OHWI, *Fl. Jap. rev. ed.* : 503 (1965).

*Ficus foveolata* WALL. var. *nipponica* (FR. et SAY.) KING in *Ann. Roy. Bot. Gard. Calc.* 1-2 : 134, f. 167-E (1888).

*Ficus foveolata* (non WALL.) KANEHIRA, From. Trees, rev. ed.: 153, f. 99 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 41, f. 4, 5 (1944). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 722, 1. 576 (1962).

*Ficus sarmentosa* BUCH.-HAM. var. *nipponica* (FR. et SAV.) CORNER in Gard. Bull. Sing. 18: 7 (1960), 21: 52 (1965). HATUSIMA, Fl. Ryukyus: 227 (1971). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 148 (1976).

*Ficus sarmentosa* BUCH.-HAM. subsp. *nipponica* (FR. et SAV.) OHASHI in Hara, Fl. East. Himalaya 1: 54 (1966).

Hab. Honshu (from Niigata and Fukushima to southern parts), Shikoku, Kyushu, Ryukyus, Taiwan and Korea.

イタビカズラ イタビカズラの学名は人によってかなり異なる。それはヒマラヤのものと中国、日本のものが別種であるか同種であるかということからきている。花囊の大きさや毛の性質は両者に変異があるので特徴にならないが、ヒマラヤのものは果囊に長い柄があって明らかに異なるので別種とする北村四郎氏の説に賛成したい。CORNERが *F. sarmentosa* の変種とした中国南部の *F. impressa* CHAMP. も花囊が小さく長い柄をもち、別種として扱った方がよいであろう。

イタビカズラを種とする場合、これまでよく使われていた *F. nipponica* FR. et SAV. より *F. oxyphylla* MIQ. の方が発表が早いことで、北村氏は後者を使用した。この学名のものがイタビカズラなのかどうか私にはよくわからない。MIQUEL の発表した雑誌は一般に見られないもので私は見ていない。また MIQUEL 自身、後にこれをイヌビワ *F. erecta* THUNB. の異名としている (Ann. Mus. Bot. Lugd.-Bat. 3: 214, 1867)。しかし CORNER はこれをイタビカズラの異名とした (Gard. Bull. Sing. 18: 7, 1960)。CORNER は恐らく基準標本を見ての処置だと思ふ。この見解に従ってイタビカズラに *F. oxyphylla* MIQ. を使うことにする。

中国西部と台湾には若枝や葉柄に開出毛があり、花囊が大きくて毛が密生し、先端の總包葉の突出がいちじるしいものがあり var. *henryi* (KING ex OLIVER) YAMAZAKI, comb. nov. (*Ficus henryi* KING ex OLIVER. in Hook. Ic. Pl.: t. 1824, 1889) という。

16. *Ficus thunbergii* MAXIM. in Bull. Ac. Imp. Sci. St-Pét. 27: 552 (1882). MAKINO, New Ill. Fl. Jap.: 197, f. 387 (1961). KITAMURA et MURATA, Col. Ill. Woody Pl. Jap. 2: 240, f. 692 (1979).

*Ficus stipulata* (non THUNB.) NAKAI, Fl. Sylv. Koreana 19: 124, f. 40 (1932). OHWI, Fl. Jap. rev. ed.: 503 (1965). HATUSIMA, Fl. Ryukyus: 228 (1971).

*Ficus pumila* L. var. *thunbergii* (MAXIM.) CORNER in Gard. Bull. Sing. 18: 7 (1960).

Hab. Southwestern Honshu (eastward Pref. Chiba), Shikoku, Kyushu, Ryukyus and Korea (Isl. Chejudo).

Distr. The same above.

ヒメイタビ オオイタビによく似るが、果実が小さく球形であることの他に、若枝に開出する短い剛毛があること、成葉になっても裏面脈上に毛が残ること、幼苗の葉は1~2個の大きな鋸歯があることなどで区別できる。

17. *Ficus pumila* L., Sp. Pl.: 1060 (1753). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 158, f. 107 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 45, f. 3 (1944). MAKINO, New Ill. Fl. Jap.: 97, f. 388 (1961). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 52 (1965). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 145, f. 242 (1976). KITAMURA et MURATA, Col. Ill. Woody Pl. Jap. 2: 241, f. 693 (1979).

*Ficus stipulata* THUNB., Dissert. Ficus: 8 (1786).

Hab. Southwestern Honshu (eastward Pref. Chiba), Shikoku, Kyushu, Ryukyus and Taiwan.

Distr. Northern Indochina, S. China (incl. Taiwan), Ryukyus and Japan.

オオイタビ 若枝や葉柄、葉の裏面などに始めは圧伏した剛毛があるが、後に殆んど無毛となる。葉の先は鈍く、果実は楕円形で先はとがらない。幼苗の葉は全縁である。

18. *Ficus awkeotsang* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo 18: 151, f. 1-3 (1904). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 149, f. 94 (1936). SATA, Monogr. *Ficus*, Form. and Philipp.: 43, f. 1, 2, 38 (1944). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 711, f. 565 (1962).

*Ficus pumila* L. var. *awkeotsang* (MAKINO) CORNER in Gard. Bull. Sing. 18: 61 (1960). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 145 (1976).

Hab. Taiwan, in the central mountains at altitudes of 1200-1900 m.

Distr. Taiwan.

アイゴクシ (愛玉子) 台湾の山地にのみ生え、種子から寒天状の清飲料を作るので知られる。オオイタビの変種とされることがあるが、枝や葉の裏面には成長後もかなり密に毛が残る、葉は大きくて先

がとがり、果実もより大きく先がとがるなど、種類として区別さるべきものと思う。

Sect. *Neomorphe* KING

ギランイヌビワ節 高木。花囊は幹上につく。雄花は柄がなく花萼の上部に集ってつく。雄しべは2本。花柱の先は円錐状に膨らむ。花囊の基部の總包葉は一所に集って首輪状になる。アジアで7種しか知られていない小さな群である。

19. *Ficus variegata* BL., Bijdr. Fl. Nedel. 1: 459 (1825). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 744, f. 598 (1962). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 82 (1965). HATUSIMA, Fl. Ryukyus: 228 (1971). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 154 (1976).

*Ficus konishii* HAYATA, Mat. Fl. Formos.: 273 (1911). KANEHIRA, Form. Trees rev. ed.: 156, f. 103 (1936).

*Ficus garicae* (non ELM.) LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 723, f. 577 (1962).

Hab. Ryukyus (Isls. Yaeyama) and Taiwan.

Distr. Isl. Andaman, Burma, Thailand, Indochina, S. China, Malaysia, Queensland, Philippines, Taiwan and Ryukyus.

ギランイヌビワ (コニシイヌビワ) 琉球, 台湾のものは変種 var. *garicae* (ELM.) CORNER にあてられているが、側脈の数は多くなく、最下部の側脈は伸長し、葉の先はとがるので var. *sycomoides* (MIQ.) CORNER にあたるものと考えられる。このことは籾山泰一氏が東大の標本に手記している。

Sect. *Ficus*

イチジク節 低木または小高木ときにほふくする低木。多くは花囊が葉のわきにつくがときに幹上につく。雄花は多くは柄があり、花囊内に散在するか上部に集ってつく。雄しべは2本。花柱の先は太くならずしばしばゆがんだ2裂状になる。花囊の基部の總包葉は一所に集って首輪状になる。

20. *Ficus ruficaulis* MERR. in Gov. Lab. Publ. (Philipp.) 17: 13 (1904), not seen. ELMER in Leaf. Philipp. Bot. 1: 60 (1906). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 47 (1965). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 146 (1976).

*Ficus antaoensis* HAYATA, Icon. Pl. Form. 8: 122, f. 49 (1919). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 148, f. 93 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 26, f. 10-2, 33-1, 2, 36-4 (1944).

Hab. Taiwan (Hengchun Pen. and Isl. Lanyu).

Distr. Celebes, Philippines and Taiwan.

21. *Ficus esquiroliana* LÉVEILLÉ in Bull. Géogr. Bot. 24: 252 (1914), not seen. CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 45 (1965). HILL, Figs Hongk.

59, pl. 39 (1967).

*Ficus fulva* (non Reinw.) CHUN et CHANG (ed.), Fl. Hainan 2: 390 (1965). Acad. Sin. (ed.), Icon. Corm. Sinic. 1: 489, f. 978 (1972). LIU et LIAO, Dendrology 1: 231, f. 69 (1979).

Hab. Taiwan. Pref. Pingtung, Tachi (C. E. Chang, Dec. 23, 1979, TI).

Distr. S. China (incl. Taiwan), Tonkin, Laos and N. Thailand.

22. *Ficus carica* L., Sp. Pl.: 1059 (1753). MAKINO, New Ill. Fl. Japan: 97, t. 385 (1961). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 36 (1965).

Distr. Turkey to Afghanistan. Widely cultivated.

イチジク 宝永年間 (1624~1643) に日本に入り広く栽培される。一般に栽培されているものは雌株であって雄株は見られず、成熟果の種子は不稔である。

23. *Ficus deltoidea* JACK, Mal. Misc. 2: 71 (1822), not seen. MERRILL in Journ. Arn. Arb. 33: 225 (1952). CORNER in Gard. Bull. Sing. 17: 420 (1959), 21: 37 (1965). CORNER et WATANABE, Ill. Guide Trop. Pl.: 38, f. (1969).

*Ficus diversifolia* BL., Bijdr. Fl. Nederl. 1: 456 (1825).

Distr. Malay Pen. Sumatra, Java, Borneo and Celebes. Widely cultivated.

コバンボダイジュ 葉が小さく倒卵形で主脈が二分岐しているのが特徴である。葉形、主脈の分岐のしかた、果実の大きさなど非常に変化が多く、現地でも多くの変種が報告されている。一般に栽培されているものは var. *deltoidea* の形にあたる。

24. *Ficus pedunculosa* MIQ. in Lond. Journ. Bot. 7: 442, f. 7-A (1848). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 731, f. 585 (1962). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 39 (1969). LIU et LIAO, in Fl. Taiwan 2: 140 (1976).

*Ficus garanbiensis* HAYATA, Icon. Pl. Form. 8: 118, f. 42 (1918). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 153, f. 100 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 35 (1944).

Hab. Taiwan; Hengchun Pen. and Isl. Lanyu.

Distr. Celebes, Moluccas, New Guinea, Philippines and Taiwan.

小低木でしばしば海近くの岩上に横に広がる。台湾では恒春半島と紅頭嶼にしか見られない。紅頭嶼のものは葉の幅が狭くややとがる傾向があるが、恒春半島のものはやや幅が広く先が円い。後者の形の

ものを var. *mearnsii* (MERR.) CORNER という。この形はフィリピンにも見られる。

25. *Ficus vaccinioides* HEMSLEY et KING in Ann. Roy. Bot. Gard. Calc. 1-2: 126, f. 159-A (1888). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 164, f. 114 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 40, f. 8, 37-1 (1944). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 743, f. 597 (1962). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 43 (1965). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 152, f. 246 (1976).

Hab. Taiwan, in thickets at low to medium altitudes or exposed lands or rocks near the sea.

Distr. Taiwan.

ほふくする枝から根を出して広がる小低木で、*F. tannoensis* と共にイヌビワ類の中ではいちじるしく特殊な形の種類である。

26. *Ficus tannoensis* HAYATA, Icon. Pl. Form. 7: 36 (1917), 8: 114, f. 37 (1918). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 162, f. 112 (1936). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 43 (1965). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 150, f. 245 (1976).

Hab. Taiwan, along the seashores, especially in eastern parts of the island.

Distr. Taiwan.

一般に葉は披針形か線状披針形で下部の幅が広く全縁であるが、ときに倒披針形または倒披針状長楕円形で上部の幅が広く、大型の歯牙をもつものがあり *f. rhombifolia* HAYATA という。

27. *Ficus formosana* MAXIM. in Bull. Acad. Imp. Sci. St. -Pét. 27: 546 (1882). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 152, f. 98 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 36, f. 9, 10-1, 35-1, 2 (1944). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 720, f. 574, excl. syn. *F. pyriformis*. CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 43 (1965). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 135, f. 238 (1976).

*Ficus taiwanicola* MAXIM. ex Acad. Sinic. (ed.): Icon. Corm. Sinic. 1: 493, f. 986 (1972).

Hab. Taiwan, in evergreen forests at low-lands throughout the island.

Distr. Tonkin, C. and S. China.

28. *Ficus stenophylla* HEMSLEY in Hook., Ic. Pl. 16-1: t. 2536 (1897). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 42 (1965). Acad. Sin. (ed.), Icon. Corm. Sinic. 1: 494, f. 988 (1972).

*Ficus formosana* MAXIM. *f. shimadai* HAYATA, Ic. Pl. Form. 8: 118, f. 41 (1918). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 38, f. 35-3, 4 (1944). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 721,

*f. 575* (1962). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 137 (1976), syn. nov.

Hab. Taiwan, in wet places of broad-leaved evergreen forests.

Distr. N. Thailand, Tonkin, C. and S. China.

*f. shimadai* は *F. formosana* の狭葉品と考えられているが、葉が細いだけでなく側脈は10~20対で、主脈に直角に近く交わり、ほぼまっすぐ走り先で曲っている。*F. formosana* は普通は側脈は5~8対で弧状に曲る。前者の形は中国大陸の *F. stenophylla* と一致する。CORNER は中国大陸で *F. formosana* の狭葉品を報告し、これに *f. shimadai* の名をあてている。これがどのようなものか問題は残るが、台湾の *f. shimadai* は *F. stenophylla* であるとする。

29. *Ficus erecta* THUNB., Bissert *Ficus*: 9 (1786). NAKAI, Fl. Sylv. Koreana 19: 121, f. 38, 39 (1932). MAKINO, New Ill. Fl. Jap.: 98, f. 389 (1961). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 40 (1965). KITAMURA et MURATA, Col. Ill. Woody Pl. Jap. 2: 237, f. 690 (1971).

Hab. Central and western Honshu (eastward Kanto distr.), Shikoku, Kyushu, Ryukyus and Korea (Isl. Chejudo), in secondary forests near the seashores.

Distr. The same above.

イヌビワ 若枝、托葉、葉、花囊など全体無毛である。葉が線状披針形のもをホソバイヌビワ *f. sieboldii* (MIQ.) CORNER という。イヌビワと同じ分布域である。

var. *beeheyana* (HOOK. et ARN.) KING in Ann. Roy. Bot. Gard. Calc. 1-2: 142, f. 178-A (1888). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 41 (1965). HATUSHIMA, Fl. Ryukyus: 229 (1971). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 132, f. 237 (1976). KITAMURA et MURATA, Col. Ill. Woody Pl. Jap. 2: 238 (1979).

*Ficus beeheyana* HOOK. et ARN., Bot. Beech. Voy.: 271 (1841). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 149, f. 95 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 33, f. 11, 12 (1944).

*Ficus erecta* THUNB. var. *yamadorii* MAKINO ex Ohwi, Fl. Jap. rev. ed.: 504 (1965).

Hab. Honshu (Isl. Awazi), Ryukyus and Taiwan, in secondary forests at low altitudes.

Distr. Central and southern China, Taiwan and Ryukyus.

ケイヌビワ イヌビワに較べ全体に軟毛がある。毛の程度はごく少ないものからなり密生するものま

で個体によってかなり異なる。この葉の線状披針形のものをも *f. koshunensis* (HAYATA) CORNER といひ、台湾と中国に分布する。

30. *Ficus iidaiana* REHD. et WILS. in Journ. Arn. Arb. 1: 117 (1919). TOYODA, Fl. Bonin.: 162, 164, f. 73 (1981).

Hab. Isls. Bonin (Isl. Hahazima), in evergreen forests of the island.

Distr. The same above.

オオヤマイチジク 小笠原の母島の山地にのみ見られ、大木となって林中にはえる。イヌビワに近縁と見られるが、葉は大きく、花囊は紡錘形である。

31. *Ficus boninsimae* KOIDZ. in Bot. Mag. Tokyo 27: 185 (1913). TOYODA, Fl. Bonin.: 38, 40, f. 9 (1981).

*Ficus nishimurae* KOIDZ. in Bot. Mag. Tokyo 32: 251 (1918). TOYODA, l. c.: 130, 132, f. 57 (1981), syn. nov.

Hab. Isls. Bonin (Isls. Chichizima and Isls. Hahazima) and Isls. Volcano (Isl. Kitaïow), in sunny thickets.

Distr. The same above.

トキワイヌビワ 小笠原諸島と硫黄島諸島に分布する。林縁や低木林中の日当りのよい所に生える。イヌビワに近縁であるが、葉は小さくて厚く、先はイヌビワほどにはとがらない。イヌビワに近縁でも、母島にあるオオヤマイヌとはかなり形が異り、直接の関係はなく、それぞれ別個にイヌビワとの間に分化が起ったものと考えられる。

林中に生える低木で、葉がより厚く、先の鈍いものがあり、オオトキワイヌビワ *F. mishimurae* KOIDZ. と呼ばれるものがあるが、トキワイヌビワとは連続的な変化であり、区別は困難である。

Sect. *Sycidium* MIQ.

ムクイヌビワ節 高木または低木。花囊は一般に葉のわきにつく。雄花は花囊の上部に集ってつく。雄しべは多くは1本、ときに2本。花柱の先は太くならず2裂状になることもない。花囊の基部の總包葉は互生し首輪状にならない。花囊上にはしばしば側部總包葉がある。

32. *Ficus copiosa* STEUD., Nomencl. Bot. 2: 635 (1841). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 65 (1965).

*Ficus senffiana* WARB. in Schum. et Lauterb., Natur. Fl. Deutsch. Schutzg. Südsee: 247 (1905). KANEHIRA, Fl. Micron.: 90, f. 19 (1933).

Hab. Micronesia: Isl. Palau and Isl. Yap., in shady places with moderate humidity.

Distr. The same above.

葉は倒卵状長楕円形で基部は心形であるのが特徴。花囊は幹上生の傾向がある。

33. *Ficus ampelas* BURM. f., Fl. Ind.: 226 (1768). CORNER in Gard. Bull. Sing. 17: 459 (1959), 21: 67 (1965). LIU, Ill. Nat. Intr. Ling. Pl. Taiwan 2: 710, f. 564 (1962). HATUSIMA, Fl. Ryukyus: 229 (1971).

*Ficus kingiana* HEMSLEY in Hook. Ic. Pl. 16-1: t. 2535 (1899). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 155, f. 102 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 55, f. 26, 27, 30-1-3 (1944).

Hab. Ryukyus (northward Isl. Amami-ohshima) and Taiwan, in evergreen forests at low altitudes.

Distr. Sumatra, Java, Borneo, Celebes, Timor, Moluccas, Philippines, New Guinea, Taiwan and Ryukyus.

ホソバイヌビワ (キングイヌビワ) 低地の常緑林中にはえる小高木、ムクイヌビワより葉が小さく、花囊は小さく赤熟する。

34. *Ficus irisana* ELMER, Leaf. Philipp. Bot. 1: 45 (1906). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 69 (1965). HATUSIMA, Fl. Ryukyus: 229 (1971). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 137, f. 239 (1976).

*Ficus hayatae* SATA in Journ. Trop. Agr. 6: 28 (1934), Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 56, f. 28-1 (1944).

*Ficus rigida* (non BL.) KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 159, f. 109 (1936).

*Ficus gibbosa* (non BL.) LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 724, f. 578 (1962).

Hab. Ryukyus (Isls. Okinawa, Ishigaki, Iriomote, Minamidaitōzima) and Taiwan, in broad-leaved evergreen forests at low altitudes.

Distr. Celebes, Philippines, Taiwan and Ryukyus.

ムクイヌビワ 葉はいちじるしくざらつき、二列互生する。果実は黄色または紅黄色に熟す。CORNER は var. *validicaudata* (MERR.) CORNER が沖縄にも分布すると報告している (Gard. Bull. Sing. 21: 69, 1965)。これは葉も花囊も小形の矮小形で、フィリピンで書かれ、山頂部の風にさらされる所に生える生態型であろうと CORNER は考えている。琉球にこういう型があったとしても特定の植物群とは考えられない。

35. *Ficus cumingii* MIQ. in Lond. Journ. Bot. 7: 235 (1848). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 150 (1936). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 716, f. 570 (1962). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 66

(1965). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 131 (1976).

*Ficus kusanoi* HAYATA, Mat. Fl. Form.: 275 (1911). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 156, f. 104 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 52, f. 40-4, 41 (1944).

Hab. Taiwan: Isls. Lanyu and Lutaou.

Distr. N. Borneo, Philippines, Taiwan and New Guinea.

台湾のものは葉の幅が広く var. *terminalifolia* (ELM.) SATA にあたる。葉がざらつきムクイヌビワに似るが、一般に葉が対生するので区別できる。

36. *Ficus heteropleura* BL., Bijdr. Fl. Nederl. 1: 466 (1825). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 77 (1965). HATUSIMA in Mem. Fac. Agr. Kagoshima Univ. 7: 303 (1970).

*Ficus caudato-longifolia* SATA in Journ. Soc. Trop. Agr. 6: 26 (1934): Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 49, pls. 23-25 (1944). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Fl. Taiwan 2: 715, f. 569 (1962). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 130 (1976).

Hab. Taiwan: Isl. Lanyu.

Distr. Assam, Bengal, Bhutan, Burma, Thailand, Indochina, S. China, Malaysia, Philippines and Taiwan.

37. *Ficus virgata* REINW. ex BL., Bijdr. Fl. Nederl. 1: 454 (1825). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 75 (1965). HATUSIMA, Fl. Ryukyus: 229 (1971). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 155 (1976).

*Ficus vasculosa* (non WALL.) KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 165, f. 115 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 53 (1944). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 745, f. 599 (1962).

*Ficus philippinensis* MIQ. in Lond. Journ. Bot. 7: 435 (1848). KANEHIRA, Fl. Micron.: 88 (1933); Form. Trees, rev. ed.: 158, f. 106 (1936).

*Ficus gibbosa* (non BL.) SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: f. 29, 30 (1944).

Hab. Ryukyus (northward Isl. Amami-ohshima), Taiwan, and Micronesia (Isl. Ponape), in thickets near the seashores or in forests at low altitudes.

Distr. Celebes, Moluccas, Philippines, Taiwan, Ryukyus, New Guinea, Micronesia (Isl. Ponape) and Polynesia.

ハマイヌビワ 太平洋諸島の海岸に広く分布する低木で、沖縄では普通に見られる植物であるが、ミクロネシアではカロリン群島のポナベ島にしか知ら

れていない。花柄に毛のあるものを var. *philippinensis* (MIQ.) CORNER といい、CORNER は沖縄、台湾にも分布するとしているが、沖縄、台湾のものは変種として区別するほどはっきりしたものとは思えない。

38. *Ficus tinctoria* FORST. f., Fl. Ins. Austr. Prodr.: 76 (1786), not seen. KANEHIRA, Fl. Micron.: 91, f. 20 (1933). CORNER in Gard. Bull. Sing. 17: 475 (1959); 21: 74 (1965). STONE in Micronesica 6: 251 (1970). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 152 (1976).

*Ficus swinhoei* KING in Ann. Roy. Bot. Gard. Calc. 1-2: 81, (1888). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 162, f. 111 (936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 51, f. 28-2, 39-1, 2 (1944). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 739, f. 593 (1962).

*Ficus tinctoria* FORST. f. subsp. *swinhoei* (KING) CORNER in Gard. Bull. Sing. 17: 476 (1959).

Hab. Taiwan: Hengchun Pen. and Isl. Lanyu. Micronesia: Inls. Palau, Saipan, Yap and Truk, in thickets on the seashores.

Distr. Celebes, Moluccas, Philippines, Taiwan, New Guinea, N. Australia, Micronesia and Polynesia.

subsp. *tinctoria* の分布は太平洋諸島が中心であるが別の亜種 subsp. *gibbosa* (BL.) CORNER はマレーシア、インドシナ、華南に分布し、subsp. *parasitica* (WILLD.) CORNER はインドシナ、ビルマ、インド、セイロン、アンダマンなどに分布するので、種としての分布は非常に広い。台湾のものは葉の先が円くなり、基部も円形になる傾向があるので subsp. *swinhoei* (KING) CORNER として区別される。台湾やフィリピンの Babuyan 島のものは葉が上記のような形になる傾向が強いが、母種からはっきり区別するのはむずかしい。

本種とハマイヌビワ *F. virgata* とは非常に近いもので、両者の区別点は CORNER (Gard. Bull. Sing. 21: 141, 1965) がくわしく述べているが、葉の形以外の差異ははっきりしない。葉型も変化が多いので区別はいっそう困難である。ミクロネシアでポナベ島のものだけが *F. virgata* とされ、他島のものはすべて *F. tinctoria* とされているのも、両者を別種として扱うのに疑問をいだかせる。生品によるくわしい調査を必要とする。台湾には両者があるが、前述したように台湾の *F. tinctoria* は葉型がやや特殊であるのでハマイヌビワとの区別は比較的はっきりしている。

Sect. *Sycocarpus* MIQ.

アカメイヌビワ節 小高木。花囊は葉のわきにつく。雄花は果囊の上部に集ってつく。雄しべは1~2本。花被片は合着して筒状または盃状になる。花柱の先は太くならずまた2裂状になることもない。花囊の基部の3枚の總包葉はほぼ一所につき首輪状になる。

39. *Ficus bengutensis* MERR. in Gov. Lab. Publ. (Philipp.) 29: 10 (1905), not seen. ELMER, Leaflet. Philipp. Bot. 1: 54 (1906). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 89 (1965). HATUSIMA, Fl. Ryukyus: 228 (1971). KITAMURA et MURATA, Col. III. Woody Pl. Jap. 2: 239 (1979).

*Ficus harlandii* (non BENETH.) KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 154, f. 101 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 29, f. 13-1, 34 (1944). LIL, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 725, f. 579 (1972).

*Ficus fistulosa* (non REINW. ex BENTH.) LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 134 (1976) incl. f. *bengutensis* (MERR.) LIU et LIAO.

Hab. Ryukyus (northward Isl. Amami-ohshima), Taiwan. in evergreen forests at low altitudes.

Distr. Philippines, Taiwan and Ryukyus.

アカメイヌビワ (ハルランイヌビワ, コウトウイヌビワ) 常緑樹林中にはえ、全体にあら毛がはえる。花囊は球形である。

40. *Ficus septica* BURM. f., Fl. Ind.: 226 (1768). KANEHIRA, Form. Trees, rev. ed.: 161 f. 110 (1936). SATA, Monogr. *Ficus* Form. and Philipp.: 27, f. 16, 17 (1944). CORNER in Gard. Bull. Sing. 21: 92 (1965). LIU et LIAO in Fl. Taiwan 2: 148,

f. 244 (1976). HATUSIMA, Fl. Ryukyus: 230 (1971). KITAMURA et MURATA, Col. III. Woody Pl. Jap. 2: 239 (1979).

*Ficus hauili* BLANCO, Fl. Philipp. ed. 1: 684 (1837). LIU, Ill. Nat. Intr. Lign. Pl. Taiwan 2: 726, f. 580 (1962).

Hab. Ryukyus (northward Isl. Amami-ohshima) and Taiwan, in evergreen forests at low altitudes.

Distr. Malaysia, Philippines, Taiwan, Ryukyus, New Guinea, N. Australia and Polynesia.

オオバイヌビワ (トキワイヌビワ) 奄美大島以南マレーシアの常緑樹林内にはえる。金平氏は小笠原にも分布するように書いているが、本種の北半球での東限は大東島であって、小笠原諸島には見られない。アカメイヌビワと共に、花被片が合着する点で特殊な一群をなす。全体無毛で花囊は扁平な球形である。

台湾の稀少なイチジク属植物の標本の入手について、台湾の廖日京、張慶恩氏に御世話になった。ここに厚く御礼申し上げる。

## Summary

A taxonomic revision of the species of the genus *Ficus* from Japan, Korea, Taiwan and other adjacent regions (Micronesia and Manchuria) is presented. As the result, 40 species (including 5 commonly cultivated species) were recognized from these regions. They were arranged according to the Corner's system.

(Received Dec. 10, 1982)

○ 金沢市教育委員会・金沢市埋蔵文化財調査委員会, 昭和58年3月発行。金沢市二口六丁遺跡 B5版, 226頁+97図版。非買品。

二口六丁遺跡は金沢市二宮町, ニツ屋町, 二口町, 六丁町の境界上に位置し, 犀川・浅野川両河川の間にある。当遺跡は昭和42年に北陸自動車道関係分布調査委員会の分布踏査の折発見されたが, 発掘調査は昭和53年5月から行われ, 実際に調査した面積は約320m<sup>2</sup>であった。

この結果, 出土した遺物は土器・石器・木器・植物遺体など各方面にわたり, 極めて多数のものがある。

植物遺体では, 本書の189~226頁(図版47~95)に及び, 本会の編集委員の1人である古池博氏が執筆した。同定されたものは35科59属49種で, それらについて考察すると, 本遺跡付近の現在の潜在自然植生はヤブツバキクラス域に属し, イノダテタブ群集が極盛相として成立する状態下にあるが, 植物遺体中にはそれらの構成種が認められず, ミズナラ・オニグルミ・トチノキ・ブナなどが見出されるという事実は, この地の植物相がブナクラスが卓越する自然環境にあったとみることができ, 当時は現在より約2.5°C程度低かったことが推察できる。また, 低湿地に発達する種類が多いのは現在の河北潟周辺と同様ヨシクラスが発達する低層湿原であったとみることができ。(里見信生)